

君不見春風所扇春如描  
又不見仁風恩露溢四海  
遠樹蒼々圍烟隴  
黃花白蝶飛淡霞  
紅雨斑々婀娜枝  
淡粧濃抹如西子  
白帆蒼波歷落渚  
春雨始霽天如拭  
燕々語春風之惠  
張翼差池飛雲表  
博兮春風恩  
春風暖何樂  
春風暖即父母恩  
知得春風化育惠

堯天舜日樂陶々  
天化地育詩景饒  
近水涓々繚晴圃  
翠袖紅裳舞紅雨  
淡霞靄々清楚姿  
滿天滿地都是詩  
漁歌欸乃遠近漱  
百尺橋頭燕々語  
春風三月吾子慧  
極天極地恩無際  
樂只春風暖  
春風恩何博  
春風恩即父母恩  
父母恩愛豈可諉

白い孔雀と涙

私はあなたの涙が好きです。緑の玉の如きその涙よ！  
私が物好きに路であつた人の話をする時、一日一日濃くなつてゆく青葉の樹に見  
入る時、朝から春の雨が降つて二人で寂しく坐つて居る時、  
あなたの眼にはいつも涙が一杯たまつてゐる。あなたの心とからだが一色にとけ  
てあなたの眼にたまつてゐる。

私は白い孔雀が好きです。ダイヤの如きその目よ！ それよりも貴いあなたの涙  
よ！  
私は金鶏鳥の様に着飾つた女を見る度に、白い孔雀を思ひます。そしてあなたの  
涙を思ひます。  
私が若し兔の様に臆病でなかつたら、世界中の白孔雀といふ白孔雀を我ものにし

て、その目の一つ一つを、あなたの目からおちる、ダイヤの一つ一つを、紅い糸で  
繋いで、頸にかけて、都のアスファルトの上を歩くでせうに、

あゝ、白い孔雀の輝しい目よ！  
世界中で一番貴い私のダイヤよ！

### 灯の街へ

五月の末の曇り日であつた。鉛色の黄昏が都の大通りから小さい横町まで同じ様に  
流れた。

脊の高い木の梢には可なり強い風が吹いてゐた、いふし銀の様な裏葉が片明りの  
中に光る。今丁度風上の方が明るくなつた、裏葉は小魚の腹の様に白く輝く。

屋根と屋根との重なり合つた路次ではそこ、に勝手口の戸があいて、不整頓な  
臺所が見える。夕暮れの雑音が路次から路次へ流れてゆく。本通りでは灯をつけた  
電車が通る。

その度にはの暗い路次で今日の最後の仕事をして居る人々の心をせき立てる。齒  
入れ屋は爛れた眼をしばたゝいて、口をゆがめて、明るい通りを向いて鉋を使つて  
居る、羅宇屋の車がゆく、花屋の車がゆく、砂利を入れたばかりの道を車は勢よく  
走る。黄色のエスコージャと白いマーガレットとピンクのカーネーションとがもつ  
れあつて、脊の高い燕草は孔雀草の脇で小さな紫や白や空色の花を痙攣的に慄はし  
て居る、私は思ひ返して再び本通りへ向つた。灯にぬれたそれ等の花を見よう爲め  
に。湯上りの素足のころよさに。

さらでだに灯ともし時の都大路は私の心をよろこばせた。忙しい人、閑な人、疲れ  
た人、緊張した人、貧しい人、富める人、男も女も同じ様に我がもの思つて歩い  
てをる自由の國よ！、平民主義者の手近な樂園よ！。

二 右手の狭い路次から目の前に現れた二つの影、それは二間とははなれて居らな  
かつた。襪褌に包まれた、男は女の手を引いてゆく、引きずられゆく女の手は細く骨  
ばつてゐた。恐らく盲であらう。  
おゝその長く亂した髪よ、それに最後の香油のしたたりが落ちてから幾年になる